

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：34416

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K13307

研究課題名（和文）戦後西ヨーロッパにおけるソーシャル・ツーリズムの形成に関する比較史的研究

研究課題名（英文）A Comparative Historical Study on the Formation of Social Tourism in Postwar Western Europe

研究代表者

森本 慶太 (Keita, Morimoto)

関西大学・文学部・准教授

研究者番号：20712748

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、第二次世界大戦後の西ヨーロッパ諸国におけるソーシャル・ツーリズムの展開を明らかにするべく構想された。当初は西欧諸国におけるソーシャル・ツーリズムの特徴を比較史的に解明することを目指したが、研究代表者の就職による研究環境の変化やCOVID-19の世界的流行を転機に軌道修正をはかった。特に戦時中からソーシャル・ツーリズムの構想を具体化していたスイスに焦点を当て、戦時中の議論が戦後の展開に与えた影響を考察し、著書のなかに盛り込むことができた。また、当初企図していた複数諸国の比較研究については、19-20世紀のドイツ観光史を通史的に検討することで部分的に成果をあげることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、観光業の規模拡大と連動して、観光と社会との関係が問われている。本研究では、その一事例として、国民の余暇時間の確保という社会政策上の課題とその解決策について、歴史的に検討する。第二次世界大戦前後の時代からこの問題に取り組んできた西ヨーロッパ諸国では、観光を社会的な権利と見なして、あらゆる人びとへの普及を図る「ソーシャル・ツーリズム」を制度化してきた。本研究は、とくにスイスの事例に注目し、こうした歴史的経験を具体的に解明することで、観光と社会との関係を考える視点を提供するものである。

研究成果の概要（英文）：This study was conceived to clarify the development of social tourism in Western European countries after World War II. Initially, I aimed to elucidate the characteristics of social tourism in Western European countries from a comparative historical perspective, but I changed course after changes in the research environment due to the principal investigator's employment and the worldwide popularity of COVID-19. In particular, I focused on Switzerland, where the concept of social tourism had been embodied since wartime, and was able to consider the impact of wartime discussions on postwar developments and incorporate them into my book. In addition, the comparative study of several countries, which was originally planned, was partially accomplished by examining the history of German tourism in the 19th and 20th centuries from a historical perspective.

研究分野：観光史

キーワード：ソーシャル・ツーリズム スイス ツーリズム 観光学 観光業 マス・ツーリズム ドイツ

1. 研究開始当初の背景

学術的な観光研究へのニーズが急速な高まりを見せるなか、研究すべき問題のひとつとして、観光の社会的意義が挙げられる。たとえば、ワーク・ライフ・バランスの観点から、国民に一定の余暇時間を確保することは、長年にわたって社会政策上の課題として議論されており、その文脈で観光が果たすべき役割には大きなものがある。日本に先駆けてこの問題に取り組んできた西ヨーロッパ諸国では、観光を社会的な権利と見なして、あらゆる人びとへの普及を図る「ソーシャル・ツーリズム」を構想し、第二次世界大戦後から現在まで、制度やインフラ整備に取り組んできた。西欧諸国の経験は、日本の将来像を考えるうえで、重要な参照軸となる可能性を秘めており、その歴史的意義は大きいといえる。

本研究は、「万人のための余暇」という理念に立脚し、おもに観光旅行の拡大を進めてきた、西欧諸国のソーシャル・ツーリズムの歴史的展開に着目する。そのなかでも、ソーシャル・ツーリズムを提唱する観光学者を輩出し、社会へ定着させることに成功したスイスの事例に焦点を当てる。近年でも歴史学や観光学からのアプローチにおいて、過去のソーシャル・ツーリズムの事例や、最近のヨーロッパにおけるソーシャル・ツーリズムの再定義を扱った理論研究は存在するが、スイスの事例を扱った歴史研究は限られている。本研究を通じて、社会のなかで観光が担ってきた歴史的役割を解明することをめざした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、西ヨーロッパにおける「ソーシャル・ツーリズム」の歴史的起源を、第二次世界大戦後のスイスを主たる事例として明らかにすることである。従来の研究では、ソーシャル・ツーリズム構想における労働組合の役割や、国民全体を対象とした総花的施策が目目されてきたが、本研究では、観光が社会的な権利として認められるまでの歴史過程を検討する。その際に、スイスでソーシャル・ツーリズムが発達した国内的要因と、スイス以外のヨーロッパ諸国へ普及した国際的要因の双方に注目することで、観光がヨーロッパ社会のなかで普及を図るべき不可欠な要素として位置づけられていく歴史的背景を実証的に解明することを試みた。具体的には、以下の2点をおもな研究目的とした。

(1) 第二次世界大戦後のスイスにおけるソーシャル・ツーリズムの政治・社会的意義の解明

本研究では、考察の前提として、1940年代以降のスイスで政策的課題に浮上していた、労働者層・職員層を対象とする余暇普及の実態が、戦時中から戦後にかけての社会経済状況を反映して、どのように推移していたかを検討したうえで、当時の観光学者や政治家を初めとする政策当事者によって、観光が社会問題として認識され、ソーシャル・ツーリズムの必要性が高められていく過程を実証的に考察することを目的とした。

(2) スイス型ソーシャル・ツーリズムのヨーロッパ史的な文脈における意義の解明

本研究では、ソーシャル・ツーリズムが国際的に定着する過程に着目した。その際に、スイス発のソーシャル・ツーリズムが諸外国への普及に果たした役割に着目し、国際ソーシャル・ツーリズム事務局の設立（1963年）をはじめとする国際的な振興体制の構築過程の解明を試みた。

3. 研究の方法

本研究の方法は歴史学に立脚し、ソーシャル・ツーリズムに関する文献収集による研究動向の整理と、観光学者の著作物や活動記録、観光業界団体・政府の所蔵資料をもとに研究を進めた。具体的な手順は以下の5点に大別される。

(1) 第二次世界大戦後のソーシャル・ツーリズムに関する研究動向の整理と基礎研究

第二次世界大戦後にヨーロッパや日本で構想されたソーシャル・ツーリズムについて、主要な二次文献の収集・読解につとめた。また、第二次世界大戦後に出版された、観光学者による同時代文献を収集し、1950年代の西欧でソーシャル・ツーリズムが求められた時代状況の理解を試みた。

(2) 1950～70年代スイスにおけるソーシャル・ツーリズム振興の社会経済的背景

戦後ソーシャル・ツーリズム史研究の入口として、1940年代からスイスで政策的課題として浮上していた余暇の普及が、第二次大戦後、いかなる社会経済的状况のもとで「万人のための余暇」を理念とするソーシャル・ツーリズムとして具体化したのかについて、一次史料をもとに分析することを構想した。

(3) スイス国内におけるソーシャル・ツーリズムの位置付け

本研究では、スイスのソーシャル・ツーリズムを担ったスイス旅行公庫協同組合（Reka）がどのような役割を果たしたかについて、事業構想と運営実態を実証的に解明することをめざした。本研究では、ソーシャル・ツーリズムがスイスの観光政策と密接に結びついていたことに着目し、社会政策以上に観光政策の枠組みに規定されていたという見通しのもとに考察を進め、スイス型ソーシャル・ツーリズムの特徴を示すことを試みた。

(4) 国際的文脈から見たスイス型ソーシャル・ツーリズム

本研究では、ソーシャル・ツーリズムに国際協力や社会的公平性といった新しい特徴が生じてくる過程の解明をめざした。そこで、国際観光機関連盟（1925年設立、現世界観光機関）と国際ソーシャル・ツーリズム事務局という二つの国際団体に注目し、そこでスイスのソーシャル・ツーリズムが与えた影響の検討を試みた。

(5) ソーシャル・ツーリズムの比較史的検討

スイスの事例を相対化するため、同時代の西欧諸国におけるソーシャル・ツーリズムの展開を取り上げ、比較的に検討することを構想した。比較対象として、戦後に労働組合主導でソーシャル・ツーリズム団体が形成されたドイツとオーストリア、それに「ヴァカンス天国」フランスの事例を念頭に置いていた。

4. 研究成果

研究期間中には、研究代表者が所属機関・職を複数回にわたり変更したことや、COVID-19の世界的流行といった事態が生じた関係で、想定していた研究時間の捻出や資料調査のための海外渡航が困難となった。そのため、本研究の遂行に際しては、内容の軌道修正と2度にわたる研究期間の延長を余儀なくされた。以下、本研究を通じて得られた成果について、2点に分けて整理したい。

(1) 第二次世界大戦前後のスイスにおけるソーシャル・ツーリズムと「科学的観光論」の形成

当初は戦後に焦点を当てて研究を進めることを計画していたが、資料収集上の問題から、大戦中から戦後にかけての連続性に注目し、①その間のRekaの位置づけの検討、そして、②研究・教育の制度化が進んだ「科学的観光論」の形成過程について、重点的に明らかにした。①の研究では、Rekaの設立にかかわったスイス観光連盟幹部の著作や、Rekaとその関連団体の事業報告書をもとに、戦時中にもRekaの事業が継続され、ソーシャル・ツーリズムのあり方が議論された背景と、スイスの政治・社会状況との関わりを検討した。その過程で、国民の労働力確保を重視する戦時中の政治的動向や、戦後の社会環境の展望に対して、観光業関係者がRekaを通じて積極的に適応しようとしていたことが明らかとなった。②の研究では、同時期に形成された観光論が、①で取り上げた動向と密接にかかわっており、戦時中や戦後の観光振興に向けた構想の内容を解明した。以上の研究成果については、論文や口頭発表の形で部分的に公表してきたが、2022年度末に刊行した著書『スイス観光業の近現代一大衆化をめぐる葛藤』（関西大学出版部、2023年2月）において、これまでの研究成果をまとめる形で公表することができた。

(2) 戦後西ヨーロッパ諸国におけるソーシャル・ツーリズムの展開

本研究では、研究の出発点として、戦後の日本で西欧のソーシャル・ツーリズムの諸施策の調査研究が進められていた事実に着目し、どのような経緯で日本にソーシャル・ツーリズムの導入が図られたのか確認するため、同時代文献の検討を進めた。その際、行政や観光団体を通じて、ヨーロッパ経済協力機構（OECE）ソーシャル・ツーリズム研究部会をはじめとする、ソーシャル・ツーリズムをめぐる西欧の動向について、積極的に情報収集が進められていたことを確認できた。つづいて、1950年代の西欧で開催された、ソーシャル・ツーリズムを主題とする国際会議の検討に移り、その過程で西欧世界へOECE観光委員会の動向を調査する必要が出てきた。当初は、OECEの後継機関である経済協力開発機構（OECD）本部での史料調査を予定していたが、渡航直前にOECD側で新型コロナウイルス対策にともなう利用制限が設けられたため、断念せざるをえなかった。当初想定していた戦後西欧のソーシャル・ツーリズムの比較史研究には、多くの課題が残されている。しかし、スイス以外の西欧諸国との比較に関しては、ドイツ史の概説書や事典に、ドイツとスイスの観光史を執筆する機会を得られ、スイスとドイツとのソーシャル・ツーリズムの相違点について考察するなど、一定の成果を示すことができたと考えている。また、本研究遂行の過程で、「ヨーロッパ戦後復興における観光分野の国際協力」という新たな研究課題の着想に至るなど、今後の研究の発展については、ある程度の見通しを得ることができたと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 森本慶太	4. 巻 14
2. 論文標題 書評：Yoko Akiyama, Das Schachtverbot von 1893 und die Tierschutzvereine : Kulturelle Nationsbildung der Schweiz in der zweiten Haelfte des 19. Jahrhunderts (Berlin: Metropol, Februar 2019)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ゲシヒテ	6. 最初と最後の頁 77-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 森本慶太	4. 巻 70-3
2. 論文標題 近代スイス観光史研究の課題と展望 大衆化と観光業をめぐる試論	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 関西大学文学論集	6. 最初と最後の頁 73-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 森本慶太	4. 巻 11
2. 論文標題 第二次世界大戦期スイスにおける「観光論」の形成 W・レプケとの関係性を手がかりに	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ゲシヒテ	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 森本慶太	4. 巻 126 (10)
2. 論文標題 新刊紹介：森田安一著 『『ハイジ』の生まれた世界 ヨハンナ・シュピーリと近代スイス』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 森本慶太
2. 発表標題 スイス観光業の危機と変容 第二次世界大戦期の「観光論」の展開を中心に
3. 学会等名 第3回生体管理史研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森本慶太
2. 発表標題 観光業からみたドイツ語圏の近現代史 大衆化をめぐる葛藤
3. 学会等名 東北学院大学ヨーロッパ文化総合研究所公開講演会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森本慶太
2. 発表標題 スイスにおける食と観光の歴史 苦境をいかに乗り越えたか
3. 学会等名 立命館大学食総合研究センター「食と観光」シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森本慶太
2. 発表標題 スイス観光業の戦中と戦後 第二次世界大戦期スイスにおける「観光論」の展開
3. 学会等名 関西大学史学・地理学会2020年度大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森本慶太
2. 発表標題 第二次大戦期スイスにおけるソーシャル・ツーリズムの展開 スイス旅行公庫協同組合の活動をめぐって
3. 学会等名 スイス史研究会報告会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 森本慶太
2. 発表標題 南直人氏報告「19世紀ドイツにおける生改革と食改革」へのコメント
3. 学会等名 女性史総合研究会第199回例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森本慶太
2. 発表標題 戦間期スイスの観光宣伝と風景表象
3. 学会等名 2022年度第14回関西大学東西学術研究所研究例会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 南直人、谷口健治、北村昌史、進藤修一、 爲政雅代、福永耕人、森本慶太、前田充洋	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 346
3. 書名 はじめて学ぶドイツの歴史と文化	

1. 著者名 石田勇治（編集代表）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 744
3. 書名 ドイツ文化事典	

1. 著者名 森本 慶太	4. 発行年 2023年
2. 出版社 関西大学出版部	5. 総ページ数 184
3. 書名 スイス観光業の近現代 大衆化をめぐる葛藤	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------